

表紙によせて

タチバナ *Citrus tachibana* (Makino) Tanaka

絵:角田葉子(2006年1月)

日本に自生する貴重なミカンの1種。ミカン科ミカン属の種はいずれも南方系の常緑樹で、熱帯や亜熱帯には多くの種が自生し、または栽培されるが、タチバナはその中で最も北に分布し、和歌山県、山口県および四国から九州にかけての海岸近くにまれに自生する。

樹高は3～4m、枝は比較的密生して、濃緑色の葉の葉腋には刺がある。5～6月に枝先に白色の小さな5弁花を開き、芳香がある。冬になって黄色に熟す果実は扁球形で直径2.5～3cm、果皮は薄くて剥きやすく、中には種子をもった6～8個のふくろ(じょう嚢)がある。多汁の果肉は酸っぱいが、我慢すれば食べられないことはない。

京都御所の紫宸殿前庭には「左近の桜」とともに「右近の橘」が植えられている。天皇の位置から見て右側、つまり西側が右近衛府の控え位置で、そこに植えられたのが「橘」である。

ところで、「左近」の位置には平安時代中頃までは「梅」があり、その後「桜」にかわったという説が有力で、さらに「右近の橘」も古くは、日本に自生する「タチバナ」ではなく、中国からの渡来で食用にもされた漢名の「橘」、つまり今日の「紀州ミカン」に近いものだった可能性が高いとされる。

とはいえ、日本のタチバナは分布上からも貴重な植物で、また、鉢植えでも育てやすく、種子から育てても比較的早く開花・結実する。

酸味ばかり強いので、食用には砂糖漬けやジャムの原料くらいかも知れないが、日本原生の小形ミカンをもう一度意識してみしてほしい。

ちなみに、文化勲章の形はタチバナの花(裏表紙参照)をデザインしたものである。(箱田)